

製品名: AR-β2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07195**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	46kDa

抗原情報

遺伝子名	ADRB2
別名	ADRB2; ADRB2R; B2AR; Beta-2 adrenergic receptor; Beta-2 adrenoreceptor; Beta-2 adrenoceptor
遺伝子 ID	154.0
SwissProt ID	P07550
免疫原	AR-β2 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 300-380

背景

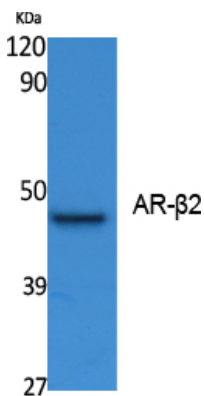
この遺伝子は、G タンパク質共役受容体スーパーファミリーに属する β2 アドレナリン受容体をコードしています。この受容体は、そ

の最終エフェクターの一つであるクラス C L 型カルシウムチャンネル Ca(V)1.2 と直接結合しています。この受容体-チャンネル複合体は、G タンパク質、アデニル酸シクラーゼ、cAMP 依存性キナーゼ、およびカウンターバランスホスファターゼ PP2A も含みます。シグナル伝達複合体の集合により、この G タンパク質共役受容体による特異的かつ迅速なシグナル伝達が確保されます。この遺伝子はイントロンを含みません。この遺伝子の様々な多型、点変異、および/またはダウンレギュレーションは、夜間喘息、肥満、および 2 型糖尿病と関連しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月];疾患: ADRB2 の多型性は、ある種の夜間喘息を引き起こす可能性がある。機能: β アドレナリン受容体は、G タンパク質の作用を介して、カテコールアミン誘導性のアデニル酸シクラーゼ活性化を媒介する。 $\beta 2$ アドレナリン受容体は、ノルエピネフリンよりも約 30 倍高い親和性でエピネフリンに結合する。PTM: パルミトイル化。Cys-341 を細胞膜に固定することにより、Ser-345 と Ser-346 のアクセス性を低下させる可能性がある。アゴニスト刺激は脱パルミトイル化を促進し、さらに Ser-345 と Ser-346 のリン酸化を可能にする。PTM: アゴニスト刺激により PKA と BARK によってリン酸化され、受容体の相同脱感作を媒介する。PKA を介したリン酸化は、BARK によるリン酸化を促進すると思われる。DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。PTM: Tyr-141 のリン酸化はインスリンによって誘導され、受容体の過感作を引き起こす。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。サブユニット: SLC9A3R1 および GPRASP1 に結合します。、

研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;エンドサイトーシス;

画像データ



AR- $\beta 2$ ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。